長子配布

令和7年度 粟ノ保小学校だより

令和7年12月22日 NO.12

ひまわり

羽咋市立粟ノ保小学校
校長 田中 利弘

スローガン【すべては 子どもたちの 幸せのために】

◇2学期終業式：よい年末・年始を迎えよう◇

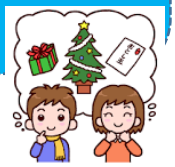
令和7年も残りわずかとなりました。明後日は、終業式です。毎月行事や取り組みがあり、長かった2学期が終了します。授業や行事のたびに、一人ひとりが一生懸命に取り組んでいました。がんばっていたことをほめてあげてほしいと思います。ほめていただくと、子どもたちは次への意欲につながります。自己肯定感も高まります。

さて、子どもたちにとって楽しみな冬休みが始まります。クリスマス・年末・年始と楽しいことがたくさんある冬休みです。夜おそくまでおきている日が増え、規則正しい生活を送ることが難しいかもしれません。しかし、大切な子どもたちの身体と脳の健康を守るために、(特別な日を除いて)規則正しい生活を送ることができるよう、声かけをお願いします！「早寝早起き朝ごはん」を守れるように、よろしくお願いします。

冬休み明け1月13日（火）は、「羽咋市学力調査」が実施されます。冬休み中に復習をすることで、基礎学力が定着します。楽しさの中にもけじめをつけて、自己管理できる子になれるように関心をもって子供の様子を見て、言葉かけをお願いします。学年からの冬休み中の課題もでます。タブレットでの課題（AIドリル、4年以上は電子図書等）も進んで取り組みましょう。

お子さんへの声かけをお願いします！

1.「はやく　寝ようね」・・・年末年始は難しいですが、午後１０時（低学年９時）
2.「おはよう。〇ちゃん」・・・朝の元気なあいさつ
3.「きょうはどうだった」・・・夕食や寝る前の会話を。どんな一日を過ごしたの。
4.「がんばったね」・・・お手伝い、きちんと勉強した時はほめて、認めてください。
5.「ありがとう」・・・子どものやる気は、親の一言で生まれます。



冬季休業中の緊急連絡先について

１２月２７（土）～１月４日（日）は年末年始のため、この期間中、学校職員は不在です。緊急且つ特別の用件がある場合は、粟ノ保小学校（２２－０２４３）へ電話を入れていただくと担当者へ転送されます。

裏面あります

◇2学期通知表渡し◇12/25(木)

「何のための成績渡しか？」それは、子どもの成長を願ってのものです。できていないことを叱るものでは決してないと言うことです。成長していくときには、今ある我が子の姿を知ることが大事です。現状を見つめ、更に伸びるためにはどうしたらいいのかを考えなければいけませんね。我が子を注意して、叱れば直るかといったら、そんな甘いものではないことはお分かりだと思います。大人でもそうだと思います。我が子の「通知書」を見て、どこが伸びているか（努力・成長しているか）をまず、褒めてください。そして、気になる点は、「具体的にどうしようか？」「何から始める？」「できるかな？」など我が子と一緒に共に考えてあげてほしいと思います。一つ一つの小さなステップの積み重ねです。できたら褒める。このことが大事です。我が子の成長のための一つの「資料」として、「目標・めあて」を話し合い、冬休み・３学期につながる会話を願っています。

◇校長の雑感◇

羽咋市家庭教育推進協議会では、「家族川柳」を毎年募集していて、市内学校はすべて取組んでいます。この短いやりとりの中で、家族の心温まるふれあいやユーモアがたくさん詰まった作品があり、私は個人的にはよい取組みであり気に入っています。過去も含めて読んでいたら、これはおもしろいと感じた作品も多く見られました。その中から少し紹介させてください。

なお、過去の作品は羽咋市 HP に載っています。

すぐキレル　母も見習え　LED（中3男）	→	母の笑顔　LED より　明るいよ（母）
毎日が　暑すぎるんだよ　アラート級（父）	→	宿題が　多すぎるんだよ　アラート級（小4女）
スイッチで　遊びすぎたら　母こわい（小3男）	→	おさないで　おにに へんしん　スイッチを（母）
体育館　部活を終えて　汗まみれ（中3男）	→	教室で　通知簿見せられ　汗まみれ（母）
宿題は　後でするから　少しまて（小4男）	→	はじまった　するするさぎね　今年もか（母）
お母さん　おいしいご飯　ありがとう（小6男）	→	その言葉　聞けば聞くほど　品増える（母）
お勉強　悪いじゃなくて　伸びしろです（中3女）	→	伸びしろを　心待ちして　３年目（母）

作品を読んでみると、家族（特に母親との関係の強さが感じられます）模様が垣間見え、「なるほどね」「そうだね」「うん、うん」とわかる作品ですね。保護者のみなさんもそう思いませんか。

私の先輩から聞いた話を思い出しました。紹介します。

> 幼い頃、台所に立つ母に尋ねたことがある。「お母さん、宝物は何？」「お母さんの宝物はおまえだよ」。指輪かネックレスかそんな答えを予想していた私は、ずいぶん驚いた。その答えがうれしくて、その後何度も同じ事を母に尋ねたものだ。就職して小学校で１年生を担任していたとき、お母さんに叱られたと、しょんぼりしているクラスの子どもにもよく話した。
>
> 「今日、うちに帰ったらお母さんの宝物は何？って聞いてごらん。」その翌日、「先生、ぼくのお母さんの宝物はぼくなんだって」とにこやかに報告してくれる子どもの顔を見て、思わずにんまりしたものである。時には、「ママの宝物は指輪だって」という報告を聞いて複雑になったこともあるようだ。

川柳もそうですが、どの子も宝。粟ノ保の宝。羽咋の宝。日本の宝。そう思います。